

配 布 資 料

(1) 国土形成計画説明資料

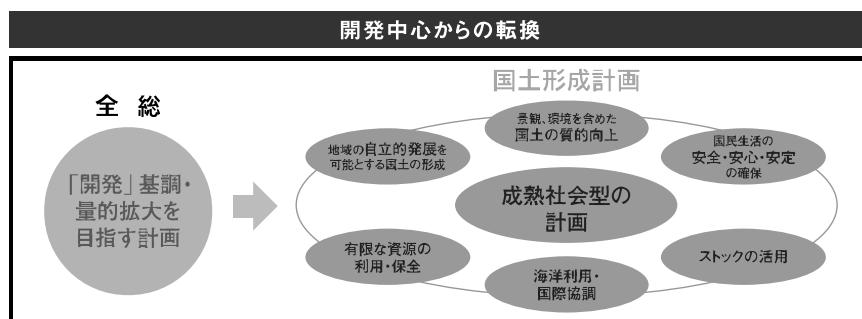
新たな国土ビジョンづくりに向けて

国土形成計画の策定

これまでの我が国の国土づくりは、全国総合開発計画（全総）を中心に関展されてきました。全総は、その時代に応じた国土政策の基本的方向を示してきましたが、我が国が人口減少時代を迎える今日、開発基調・量的拡大を志向する全総は、時代にあわなくなっていました。そのため、これまでの国土計画制度を抜本的に見直し、全総に代えて、新たに国土形成計画を策定することとなりました。

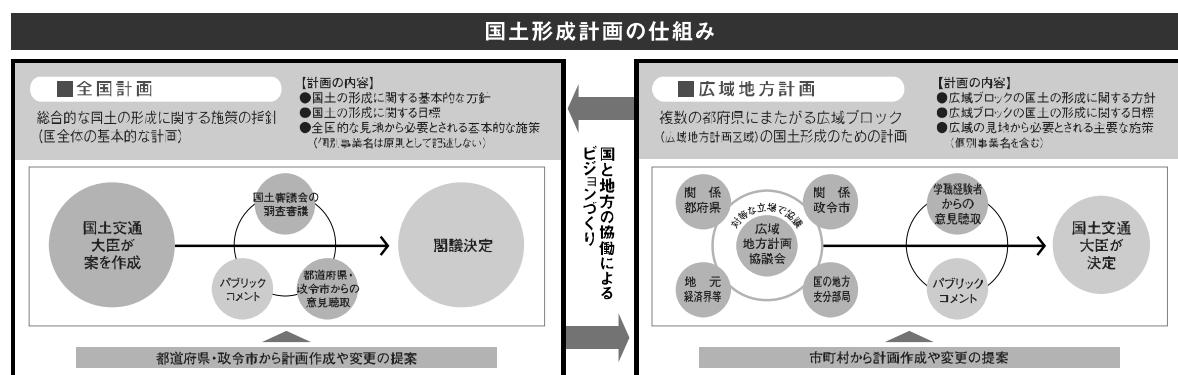
● 国土形成計画の目的

国土形成計画では、これまでの「開発」基調・量的拡大を目指す計画から転換するため、計画の対象事項など大幅な見直しが行われています。これによって、国土の質的向上を目指し、国土の利用と保全を重視した計画をつくります。



● 国土形成計画の概要

国土形成計画は、国土政策上の様々な課題に対する対応策を示し、国民が安心して生活しうる国土の将来像と豊かでゆとりある国民生活のあるべき姿を提示する「国土の将来ビジョン」です。具体的には、土地、水、自然、社会資本、産業、文化、人材等を含めた、おおむね10～15年の期間にわたる長期的な国土づくりの指針を示すものです。



国による明確な国土及び国民生活の姿を示す「全国計画」と、ブロック単位の地方毎に国と都道府県等が適切に役割分担しながら、相互に連携・協力して策定する「広域地方計画」の二つの計画から構成しています。

広域地方計画については、計画の作成及びその実施の円滑な推進を図るために、国の地方支分部局、関係都府県、関係政令市、地元経済界等が対等な立場で協議する場（広域地方計画協議会）を新たに設けます。

国土計画の策定プロセスにおける多様な主体の参画を図るため、地方公共団体からの計画提案制度や国民の意見を反映させる仕組みを設けています。

● 多様な主体が参画した計画づくりに向けて

国土づくり・地域づくりは、国、地方公共団体のみならず、企業、NPO、さらには国民一人一人の取り組みと相互の協力が必要です。多様な主体が参画した国土形成計画づくりを進めため、国土計画ウェブサイト「インターネットでつくる国土計画」が開設されています。このウェブサイトには、誰もが参加できる「電子会議室」が設けられており、また、国土形成計画に関する様々な情報の発信を行っています。

<http://www.kokudokekaku.go.jp/>

(2) 基調講演配布資料

第2回国土形成計画シンポジウム 「安全安心な中部のかたち」

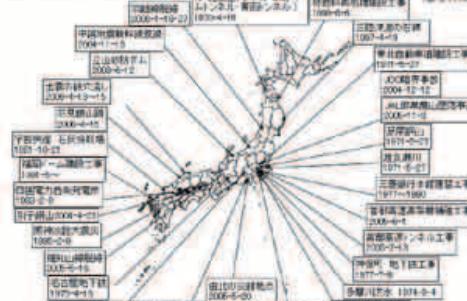
安全・安心に日本が生きるために国づくり

主催：国土交通省
中部地方整備局 中部運輸局
2006年7月21日
於：ウィルあいち

工学院大学教授
東京大学名誉教授
畠村洋太郎

①

図 見学先一覧



③

0.3現(現地・現物・現人)の必要性

1. 自然灾害
2. 緊急時(国防)や災害に備えたインフラの整備
3. 産業・都市計画を考えたインフラの整備
4. 資源・エネルギー
5. 技術と公害
6. 新工法の開発
7. 事故に学ぶ
8. 國計画を立案・実行する上で留意すべきこと

②

(1) 自然災害－風、水、土砂－

- ・ 日本海側の異常気象(竜巻)
 - 羽越線脱線事故 (2006-1-16, 2006-1-27.28見学)
 - 福井豪雨 (2004-7-18) 2001/8/22?
- ・ 土砂災害
 - 立山砂防ダム工事 (2003-6-12, 2005-10-11見学)
 - 渡良瀬川 (1971-5-27見学)
- ・ 洪水
 - 多摩川治江堤防決壊現場 (1974-9-4見学)
 - 信玄堤(歴史に見る技術) (2005-5-20見学)

④

- ① クロマツが倒れる
ビニールハウス倒壊
② 異風翻飛散
③ 作業小屋倒壊
④ 屋根瓦飛散
⑤ ビニールハウス倒壊
- 日本工学会調査
あいち
畠村の実地調査
による

図 2005年12月25日の竜巻による被害状況

⑤

(2) 地震－構造物の耐震化－

- ・ 地震動の記録
 - 羽越線脱線事故 (2006-1-16, 2006-1-27.28見学)
 - 福井豪雨 (2004-7-18) 2001/8/22?
- ・ 地震動の記録
 - 羽越線脱線事故 (2006-1-16, 2006-1-27.28見学)
 - 福井豪雨 (2004-7-18) 2001/8/22?

⑥



写真 羽越線脱線現場盛土の風上削斜面と
吹き飛ばされた作業小屋の残骸 (2006/1/16畠村撮影)



図 立山砂防ダムの位置

⑦

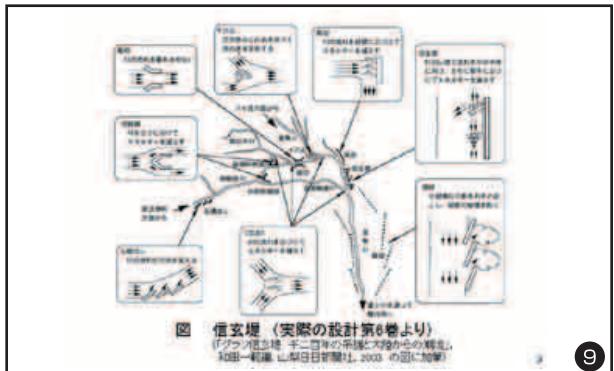
2006-7-21
移工本太郎

2006-7-21
移工本太郎



写真 白岩砂防ダム全景
(2003-6-12畠村撮影)

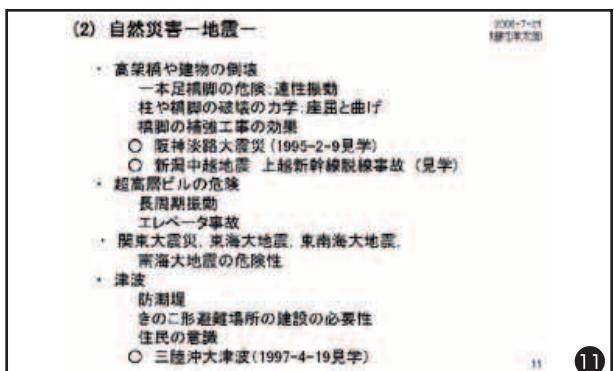
⑧



9



10



11



12



13



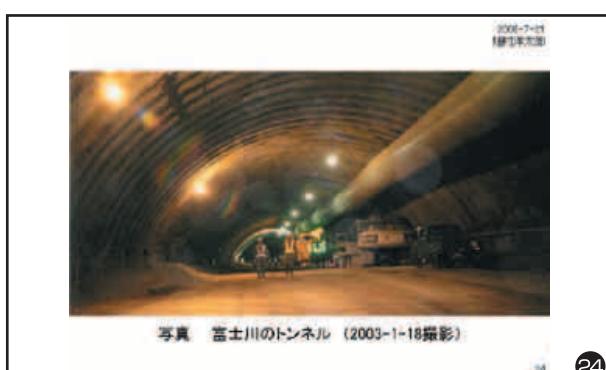
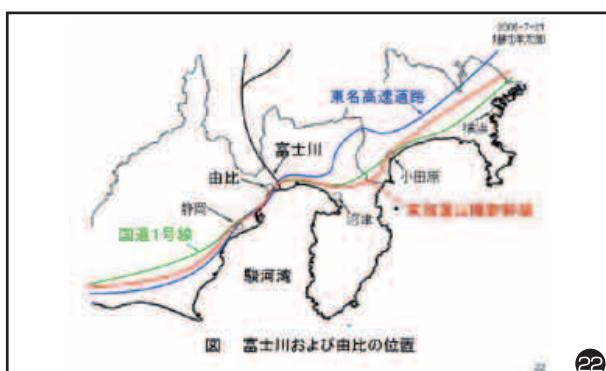
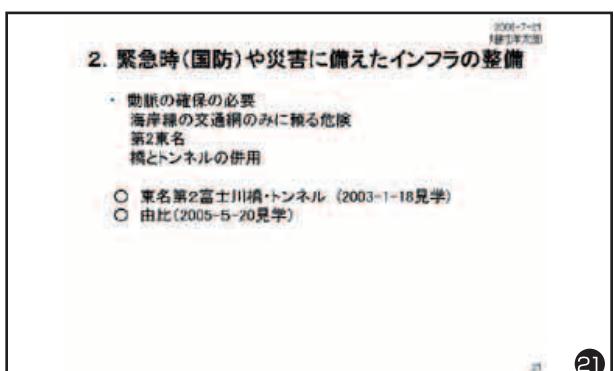
14

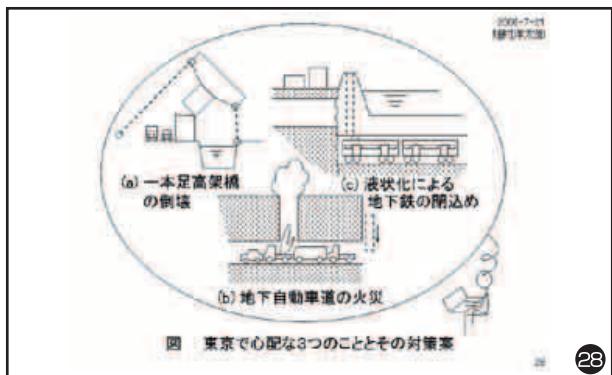
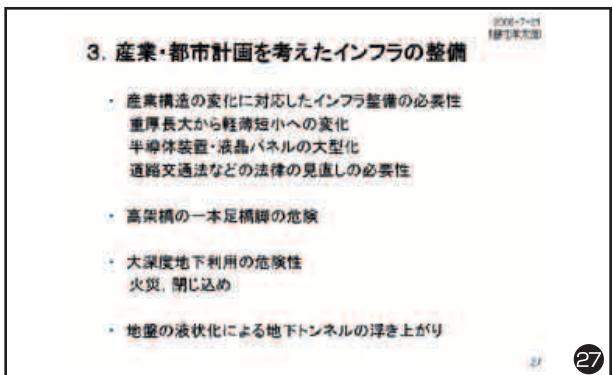


15



16





4. 資源・エネルギー

- 原子力の必要性と危険性
 - 原子力発電所・六ヶ所村核燃料再処理施設 (1989-8-6)
- 揚水発電の有効性
 - 神流川揚水発電所 (2002-12-7)
 - 東京電力葛野川揚水発電所 (2001-12-25)
 - 黒4ダム (2006-8-7見学予定)
 - 四国電力西条発電所 (1982-2-9実験下見)

33



図 四国電力西条発電所の石炭サイロ
(1983-2-9郷村撮影)

34



写真
日本原子炉六ヶ所村
核燃料再処理施設
建設工事現場
—地下の様子—
(1999-8-6郷村撮影)

35



図 葛野川ダムの位置

36



写真 東京電力葛野川揚水発電所ダム下部 (2001-12-25郷村撮影)

37

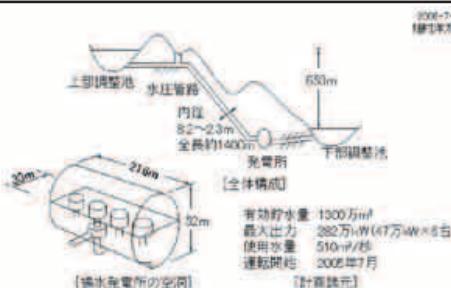


図 国内最大の揚水発電所
神流川(かんながわ)発電所の概要

38

5. 技術と公害

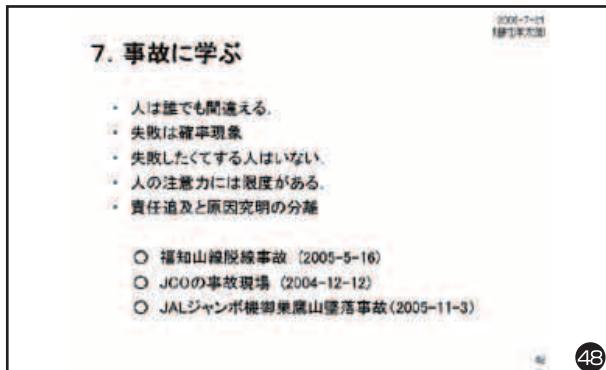
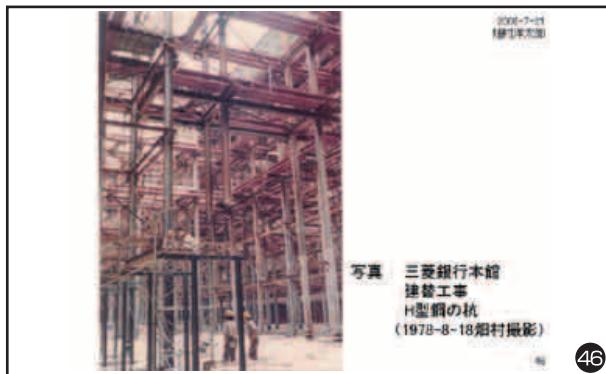
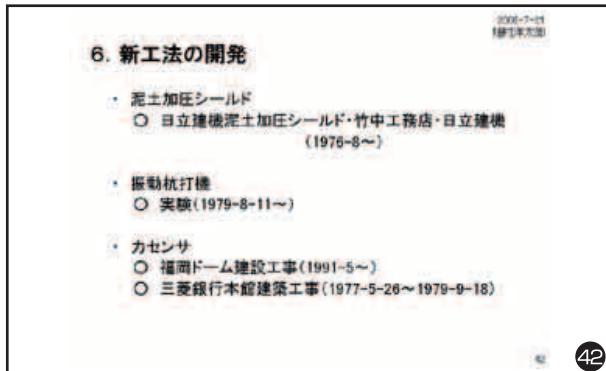
- 人の命を守る
 - 不要となつた時自然に戻す
- 利根・足尾銅山 (1971-5-27)
 - 四国別子銅山 (2004-4-23)
 - 石見銀山 (2006-4-15)
 - 出雲地方の鉄穴(かんな)流し (2006-4-13~15)

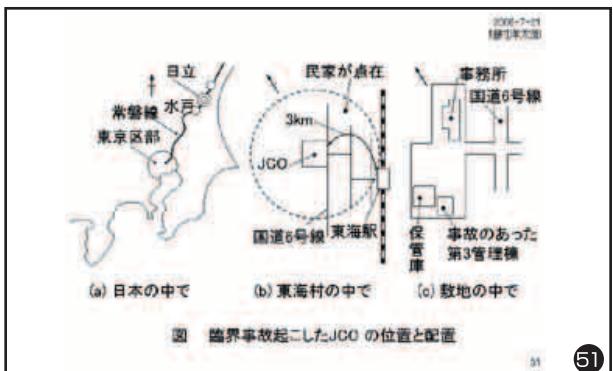
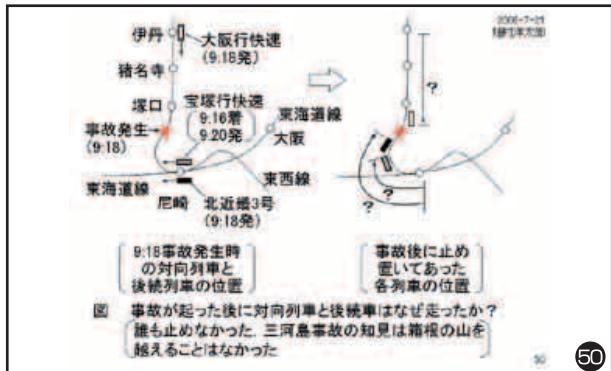
39

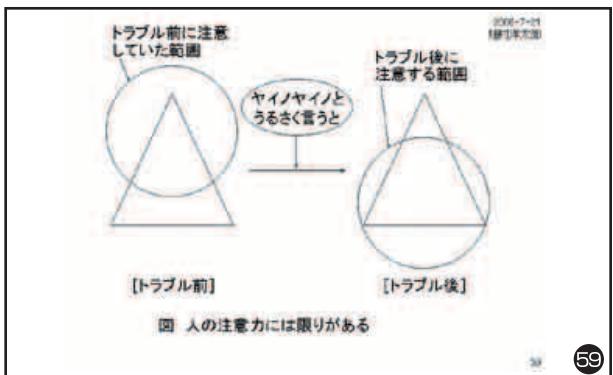
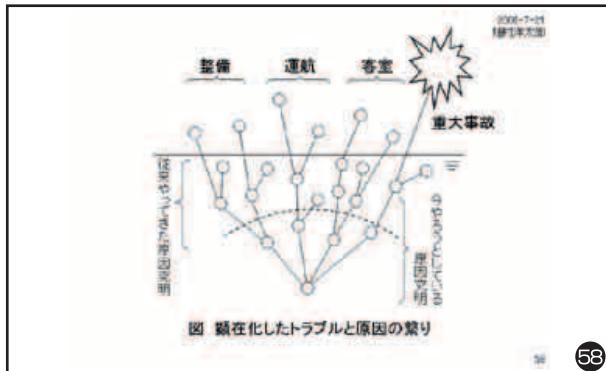
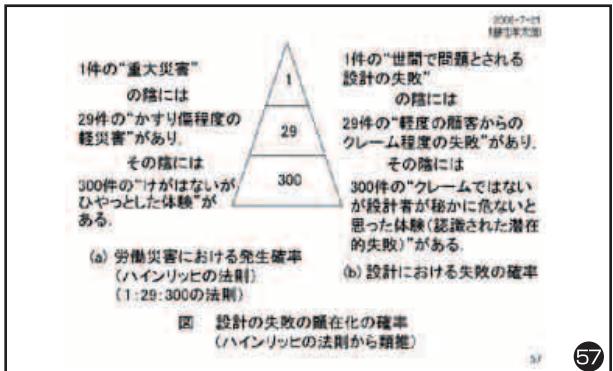


図 足尾銅山・日光・諏良湖遊水池・利根川の位置

40





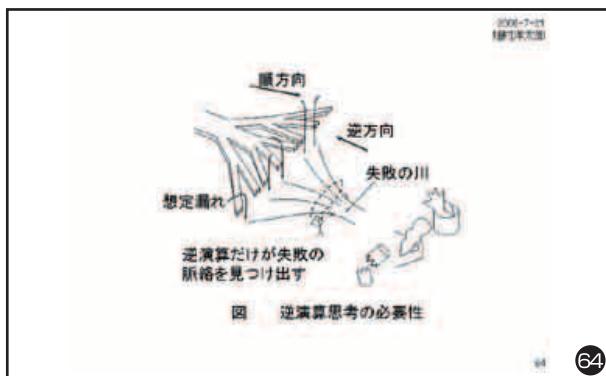
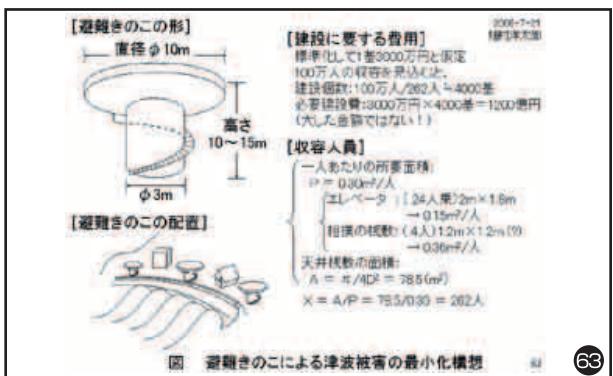
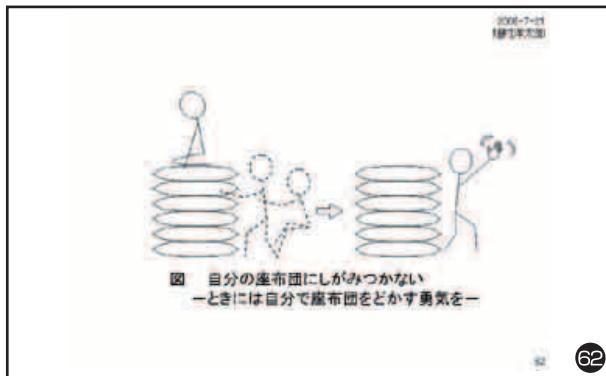
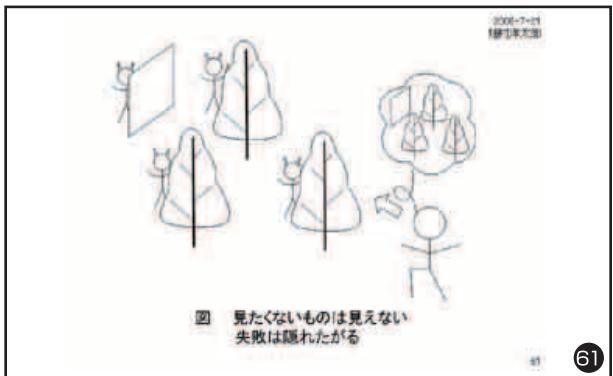


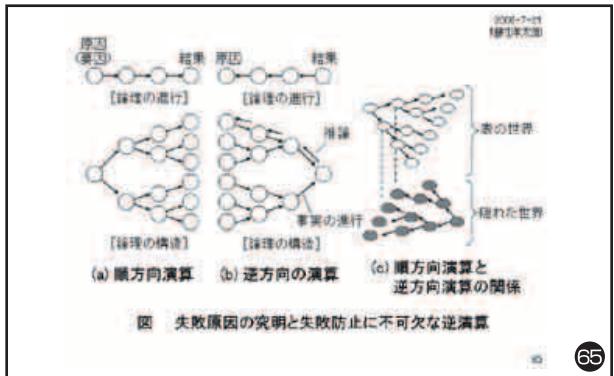
8. 國土計画を立案・実行する上で留意すべきこと

2006-7-11
移行本大蔵

- ・社会が常に変化していることに気づく
見たくないものは見えない（図）
- ・自分の座布団にしがみつかない
ときには自分で座布団をどかす勇気を（図）
- ・社会が求めていることに敏感になる
たとえば“スマトラ沖津波でどうしておけば助かったか？
来るべき南海・西南海地震になぜ備えないのか？
東海地震だけに目を奪われるな
- ・豊かな構想力を持つ
避難きのこ建設による津波被害の最小化構想（図）
- ・最悪事態に備える
過去に学び、逆演算や仮想演習をやるしかない（図）

60





四 失敗原因の究明と失敗防止に不可欠な逆演算

資料

来場者アンケート

来場者アンケート

■アンケート用紙

国土形成計画シンポジウム 来場者アンケート

本日は、ご多忙の中、国土形成計画シンポジウム「安全・安心な中部のかたち」にお越しいただきありがとうございました。本シンポジウムのご感想や中部の地域づくりについて、アンケートにご協力いただけますようお願い申し上げます。

問1 今回のシンポジウムはどのようにして知りましたか。

1. 新聞広告を見て
2. ポスター・チラシを見て
3. 中部地方整備局・中部運輸局などのホームページを見て
4. その他()

問2 今回のシンポジウムの内容について、あなたは、ご興味・ご関心をおもちになりましたか。

1. 非常に興味・関心を持てた
2. 興味・関心を持てた
3. あまり興味・関心を持てなかつた
4. 全く興味・関心を持てなかつた

問3 シンポジウムの発言の中で、あなたがご興味・ご関心を持ったことは何ですか。

問4 今後、中部の地域づくりを検討するうえで、あなたが興味のあるテーマは何ですか（複数回答可）。

1. 生活の快適さ・利便性
2. 産業の国際競争力・地域経済の活性化
3. 暮らしやすい地域社会・コミュニティの形成
4. 安全・安心な暮らし
5. 自然環境の次世代への継承
6. うるおいある風景や美しい町並み
7. その他()
8. 特にない

問5 あなたについてお書きください。

年齢 1.20代以下 2.30代 3.40代 4.50代 5.60代以上

性別 1.男性 2.女性

居住地 ()都道府県 ()市町村

国土形成計画の策定に向けて、今後も引き続きシンポジウムの開催を予定しております。次回以降の開催案内の発送をご希望される方は、ご氏名・ご連絡先をご記入ください。なお、ここに記載されました個人情報につきましては、開催案内の発送目的以外には使用いたしません。

ご連絡先 〒

ご氏名

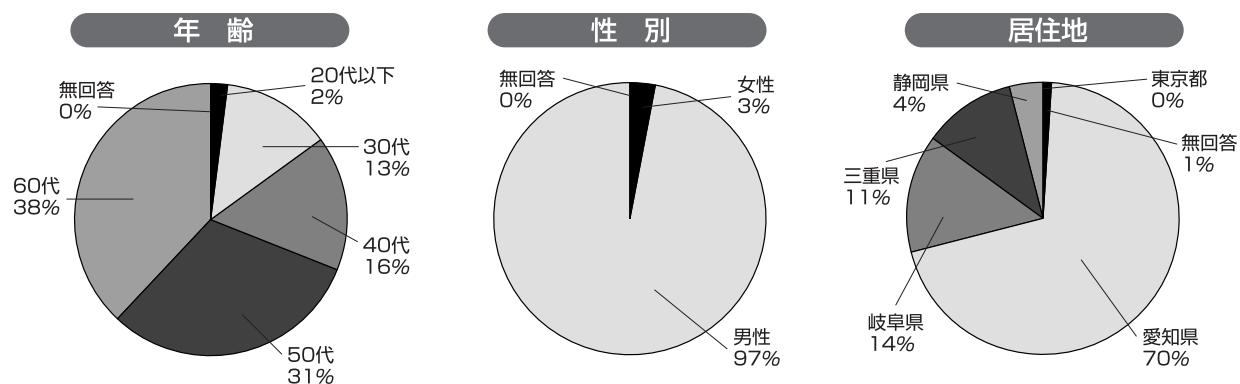
ご協力ありがとうございました。会場内のスタッフまでお渡しください。

■集計結果

全体で308票の回答があった。

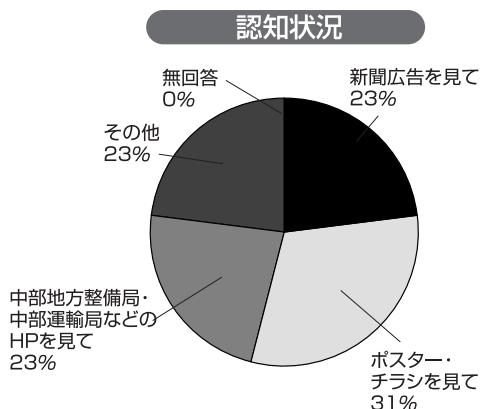
(1)回答者の属性

- 名古屋市に居住する50歳以上の男性が回答者の中心となった
- 年齢は50代、60歳以上が全体3/4を占める
- 性別では男性が9割以上
- 居住地は名古屋市が4割を占め、愛知県全体で7割となった



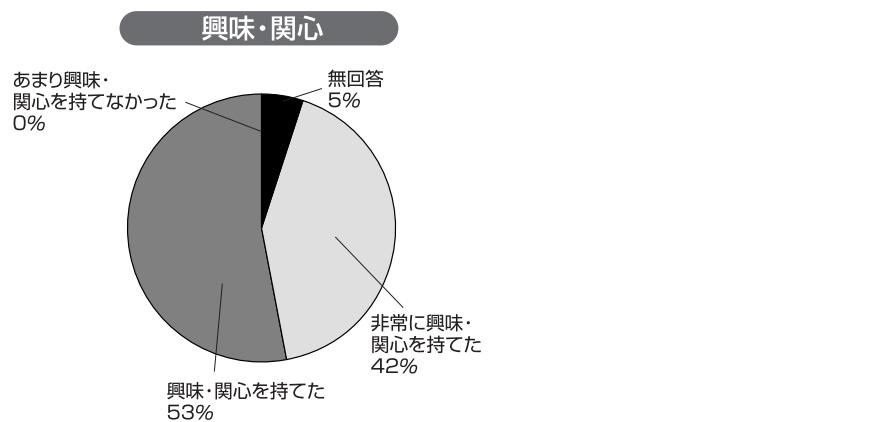
(2)認知状況について

- 今回のシンポジウムの認知経路は、「新聞広告を見て」23%、「ポスター・チラシを見て」31%、「中部地方整備局・中部運輸局などのHPを見て」23%で、各々の告知活動が効果を得ている。
- 居住地別にみると、愛知県は「新聞広告を見て」が多く、岐阜県、三重県、静岡県は「ポスター・チラシを見て」が多かった。
- その他では
 - ・案内を頂いた(DM)
 - ・友人からの情報などがあげられた。



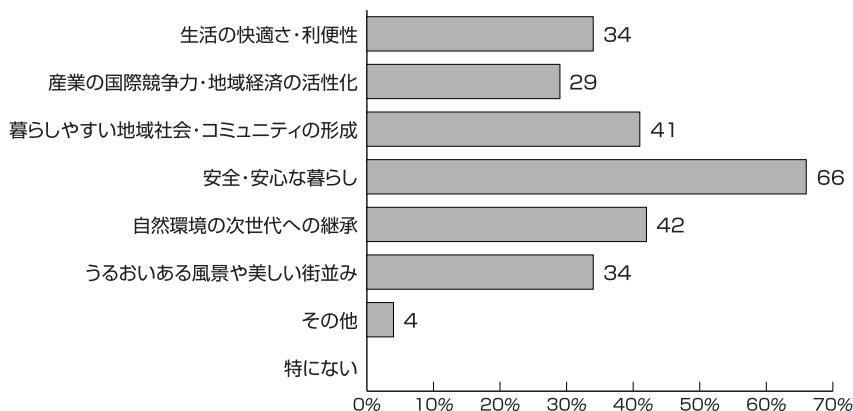
(3) シンポジウムに対する興味・関心について

- 「非常に興味・関心を持てた」が42%で、「興味・関心を持てた」が53%で今回のシンポジウムに対する評価は高い。



(4) 今後の中部の地域づくりにおいて興味のあるテーマ（複数回答）

- 「安全・安心な暮らし」が66%で突出した。他の項目はほぼ近い数値を呈し、興味・関心は分散している。



(5) その他

- 回答者の5割強の169名が次回のシンポジウム開催の案内状発送の希望があった。「国土形成計画シンポジウム」の満足度・興味度の高さがうかがえる。

■シンポジウムの発言で興味・関心を持ったこと（自由回答抜粋）

■国土形成計画について（15件）

- わかりやすかった。津波対策でも堤防を作るだけでなく多面的な見方、考え方がある。国土形成計画では多面的な検討が必要
- 人口圧力がなくなった今、安全、安心の国土形成が必要であること
- 国土形成のために必要なやらなきやいけないことは早くやって
- 国土の形成において誰も真剣に安全を考え実施していない。構想力がない
- 人口減少、宅地など土地あまりのこれからについて、土地利用計画の抜本的な行政指導、法規制を含めて思い切った強化

■安全・安心に対する考え方（26件）

- 安全の構造→長いスパンで考えることの必要性。奥尻島の防波堤の話
- 安全は「他力本願」ではなく、自分で考え、自分で判断することが必要であり、ここを共有していくようにすべきである
- 投資の安全性というのが大変細かい対策の積み重ねでなりたっていることがよくわかった
- 原点の教示、ものの見方が勉強になった。安心、安全の対策の事例がわかりやすく理解できた
- 安全、安心は自分の力と知恵でという事を痛感

■災害に対する備え（35件）

- 災害対策を行ううえでの柔軟性、余裕を持つこと。面情報、ゾーン情報のとらえ方
- 日本列島を守るにはゾーンで守る必要がある。第二東名の早期完成をしないと津波があったら経済はストップする
- 日頃から災害に対する心構えが必要であることを感じた
- 問題（災害）の防止や軽減には目を向けられている。しかし自然災害、特に地震は絶対に来る。発生後どういった対処をするかが、重要であることに同感した。大変難しい問題ではあるが、個人として考えていきたい

■インフラ整備について（7件）

- 災害に備えたインフラの整備。都市計画を考えたインフラの整備。事故に学ぶ
- インフラ整備を含めて日本のシステムには再発防止対策に大きな欠陥があるとの指摘は印象的だった。具体的に指摘された提案には賛同できる点があった
- いつ起こるかもわからない災害に対して、危機管理意識をもって早急なインフラ整備をする必要があること

■情報共有の必要性（14件）

- 情報の共有の大切さ。法令による規制の必要性と時代の変化による法令の改訂
- 線から面の情報ということに、大変興味を持った。今まで考えたことのない視点だったので、とても新鮮な感じがした
- 線ではなく面での情報分析。ロングスパンでの伝承
- 情報をオーブンにする。面で情報を得ることが必要。地域コミュニティが災害を防ぐ

■第二東名高速道路の必要性（12件）

- 第二東名高速道路を早く完成させること。高潮対策、堤防・河川改修
- 災害対応と日本経済の発展のため第二東名を早急に完成しなければならない
- 第二東名の必要性について。畠村教授の発想や視点がおもしろかった
- まじめに物を考えまじめに建設する。原子力発電は危険。静岡県由比付近が一番危険であり、早急に第二東名建設の必要性あり
- 駿河湾沿線の第二東名は一日も早い整備が必要

■ハインリッヒの法則（責任の追求と原因の究明）（11件）

- 事故の原因究明から現況組織改革への話の視点。ハインリッヒの法則への講話に关心を持った
- ハインリッヒの法則で起こった原因を逆に考えるとよく見えてくること

■逆演算について（9件）

- 失敗の原因究明には逆方向の演算が必要であり、事故は起こるもので起きないのは確立の問題。よく理解しているが防止策を何故とらないのか疑問である
- 失敗原因の究明と失敗防止に不可欠な逆演算が大切なのは何に対しても言えることだと思った。事故が起きてからではおそい。未然に防ぐにはどうすべきなのか。逃げているばかりでは何も進まない、正面から向き合って真剣に考えるのが大切、あたり前なことが一番難しい

■過去の失敗に学ぶ（22件）

- 結果から学ぶことの大切さ。何が原因か、大切なのは何かを考えることが重要。事故、トラブルは必ず発生すること
- 過去の災害の分析、課題抽出、今後の的確な防災対策、体制づくりへつなげる事
- 災害の歴史を継承する必要性（教訓）
- 失敗を隠さずに公表することが社会に寄与する基本。今、公表することにより、社会はその失敗を容認するまで熟成しつつある

■自律分散型社会（6件）

- 自律分散型の社会をどう地域で広めていけばいいのか
- 自律分散型は本来大切なものであるが、日本人の国民性として定着していない。分散はどのようにすればよいか
- 災害を防ぐための旧来からの考え方によるハード整備の間違った考え方。根本的なことを忘れているか、おろそかにすることにより、何回も同じ失敗を繰り返している。皆同一の方向に進む統一した考え方でなく個々それぞれの考え方を尊重する進め方の大変さ。中央集権的でなく、各々独立した分散型社会の構築

■基調講演について（24件）

- 畠村教授の講演は一般に周知されていない含蓄のある内容であり、国民一人一人にもっと啓蒙し、皆が安全・安心に対応する必要があるという警鐘であると受け止めた
- 実例を交えて具体的に予防対策云々の説明があり、素人にも充分理解できた気がしたシンポジウム（畠村先生の講演）
- 畠村先生の考え方にはびっくり。最初は「御用学者」と思っていたが、全く違った
- 畠村先生のお話はとても大事なことだと思う。これから子供達のためにも考えていかなければ

■その他（23件）

- 現地、現物、現人でないと判断を誤る。まじめに継続的にやることが大切だと思う
- 思想、考え方が今まで気がついてなかった点が多くかった
- 各地域でも講演を行い、地域作りに貢献して欲しい
- 一人ひとりが意識改革をして少しでもやれる所から実行しなければならないと思う
- 原子力は安全でないことを前提で原子力エネルギーを考える

～安全・安心な中部のかたち～
国土形成計画シンポジウム第2回開催報告書

平成18年11月

【 発 行 】

国土交通省中部地方整備局 企画部 広域計画課
TEL.052-953-8129

国土交通省中部地方整備局 建政部 計画管理課
TEL.052-953-8571

国土交通省中部運輸局 企画観光部 交通企画課
TEL.052-952-8006